



NEWS RELEASE 関東つくば銀行

平成20年9月4日

じゅうだん会における「新融資支援システム」の共同化について

関東つくば銀行（頭取 木村興三）は、じゅうだん会※1）各行と、電子稟議を軸とした分散系システム※2）である「新融資支援システム」を共同化することで合意いたしました。

なお、本件は分散系システムを「じゅうだん会共同版システム」の範囲に含める初めての試みとなります。

以下に概要をお知らせいたします。

記

1. 概要

- 「新融資支援システム」（以下「新システム」）は、融資業務の抜本的な業務効率化、より一層正確でかつ熟練を要しない事務処理体制、案件審査ノウハウの共有化・定型化などによる融資管理の高度化を目的に、じゅうだん会全行でシステム内容を検討してまいりました。
- 先進的な IT 技術を取り入れる新システムは、電子稟議を軸とした分散系システムであり、融資案件の期日管理などの業務管理機能、業務処理に関するガイダンス機能などを搭載します。
- 本部・営業店のパソコンと基幹系（勘定系・情報系）システムをデファクト・スタンダード※3）の SOA※4）という手法で連結させ、タイムラグのない情報共有を行います。
- 分散系システムを「じゅうだん会共同版システム」の範囲に含めるのは本件が初めてとなります。

2. 「新融資支援システム」導入の効果について

- 業務負担軽減によるお客さま対応時間の拡大やサービス向上
- 案件審査や貸出業務を中心とした融資業務の効率化
- 案件組成レベルの向上や定型商品以外での案件審査のスピードアップ

3. 共同化の効果

- 新システム構築にかかわる開発費用は、各行での按分により大幅に削減できます。また、機器等の購入費用も共同化効果により削減が可能です。
- 新システムにおいては、全行の知恵を結集して、継続的な機能追加、システムの安定的な維持・保守など、将来にわたり共同化効果を楽しむことができます。

4. 導入予定日

平成23年度下期に試行を開始し、平成24年度上期を目処に全店導入を完了させる予定です。

以上

※1 じゅうだん会

八十二銀行が開発した基幹系システムを利用する銀行グループで、メンバーは当行のほか、山形銀行、武蔵野銀行、八十二銀行、阿波銀行、宮崎銀行、琉球銀行です。会員行は共同化システムである「じゅうだん会共同版システム」に順次移行しており、現在6行で同システムが稼働しています。

※2 分散系システム

ホストコンピュータ（基幹系システム）と連携して業務処理を行う周辺システム。

※3 デファクト・スタンダード

実質的に業界標準の地位を確保した仕様や規格。

※4 SOA (Service Oriented Architecture)

各システムを柔軟に連携させる概念および構築手法。

報道機関のお問合せ先

関東つくば銀行	総合企画部調査広報室	和田	内線378
	総合企画部共同化推進室	榆木	内線347
		TEL	029-821-8111

